

| | | | | |
|------|---|-------------|----|-----------|
| 文書記号 | — | BELS 評価業務規程 | 版数 | Rev. 11.0 |
| | | | 頁 | 1 / 11 |

ユーディーアイ確認検査株式会社

BELS 評価業務規定



| | | | | |
|----|------------------|----|----------------|-----------------|
| 制定 | 平成 28 年 4 月 21 日 | 改定 | 2026 年 4 月 1 日 | ユーディーアイ確認検査株式会社 |
|----|------------------|----|----------------|-----------------|

ユーディーアイ確認検査株式会社
BELS 評価業務規程

目次

第1章 総則

- 第1条（趣旨）
- 第2条（基本方針）
- 第3条（評価の業務を行う時間・休日、事務所の所在地及び業務区域）
- 第4条（評価の業務を行う建築物の区分）

第2章 評価業務の実施方法

第1節 申請手続き

- 第5条（建築物省エネルギー性能表示の申請）
- 第6条（評価書が交付された後に行う計画の変更に係る評価の申請）
- 第7条（申請の受理及び契約）
- 第8条（申請の取下げ）

第2節 評価の実施方法

- 第9条（評価の実施方法）
- 第10条（評価書の交付等）
- 第11条（プレート等の交付）

第3章 評価料金

- 第12条（評価料金）

第4章 評価員

- 第13条（評価員）
- 第14条（評価員の教育）
- 第15条（管理者）
- 第16条（秘密保持義務）

第5章 評価業務に関する公正及び適正性の確保

- 第17条（評価業務に関する公正の確保）

第6章 雑則

- 第18条（帳簿の作成及び保存方法）
- 第19条（書類の保存及び管理方法）
- 第20条（帳簿及び書類の保存期間）
- 第21条（事前相談）
- 第22条（電子情報処理組織に係る情報の保護）
- 第23条（協会への報告等）

附則

第1章 総 則

(趣 旨)

第1条 この評価業務規程（以下「規程」という。）は、ユーディーアイ確認検査株式会社（以下「UDI」という。）が、建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律（平成27年法律第53号。以下「法」という。）27条に基づく建築物のエネルギー消費性能に関し販売事業者等が表示すべき事項及び表示の方法その他建築物のエネルギー消費性能の表示に際して販売事業者等が遵守すべき事項（令和5年国土交通省告示第970号。以下「表示告示」という。）、建築物省エネ法に基づく建築物の販売・賃貸時の省エネ性能表示制度ガイドライン（以下「ガイドライン」という。）及び一般社団法人 住宅性能評価・表示協会（以下「協会」という。）が定めたBELS 評価業務方法書（以下「方法書」という。）に順守して建築物の省エネルギー性能の評価（以下「評価」という。）を行うにあたり必要な事項を定める。

(基本方針)

第2条 評価の業務は、表示告示、ガイドライン及び方法書のほか、この規程に基づき、公正かつ適確に実施する。

(評価の業務を行う時間・休日、事務所の所在地及び業務区域)

第3条 評価を行う時間・休日、事務所の所在地及び業務区域は、UDI の建築物エネルギー消費性能適合性判定業務規程、住宅性能評価業務規程による。

(評価の業務を行う建築物の区分)

第4条 UDI が、評価の業務を行う建築物については【(非住宅又は住宅)、(規模)、(新築又は既存の別)】とする。

第2章 評価業務の実施方法

第1節 申請手続き

(建築物省エネルギー性能表示の申請)

第5条 建築物省エネルギー性能表示制度（Building-Housing Energy-efficiency Labeling System、以下「BELS」という。）に係る評価の申請をしようとする者（以下「申請者」という。）又は申請の手続きに関する一切の権限を申請者から委任された者（以下「代理者」という。）は、UDI に対し、原則として、次の各号に掲げる図書（以下「評価用提出図書」という。）を提出しなければならないものとする。

- (1)BELS に係る評価申請書 正副
(方法書別記様式第26号)
- (2)設計内容（現況）説明書 2部
- (3)申請添付図書 2部
- (4)一次エネルギー消費量および外皮計算書（申請する評価手法により異なる） 2部
- (5)その他必要な書類 2部
- (6)BELS に係る評価物件 掲載承諾書 2部

2 評価用提出図書の受理については、あらかじめ申請者と協議して定めるところにより、電子情報処理組織（UDIの使用に係る電子計算機（入出力装置を含む。）と申請者の使用に係る入出力装置とを電気通信回線で接続した電子情報処理組織をいう。以下同じ。）の使用又は磁気ディスク（これに準ずる方法により一定の事項を確実に記録しておくことができるものを含む。以下同じ。）の受理によることができる。

3 法第14条第1項に規定する登録建築物エネルギー消費性能判定機関として行う法第11条第1項に規定する建築物エネルギー消費性能適合性判定（以下「適合性判定」という。）において適合判定通知書等をUDIで交付している建築物について、BELSに係る評価の申請をしようとする場合、第1項(2)から(5)までの評価用提出図書のうち、適合性判定と重複する書類については、次の各号に掲げるいずれかの書類を添付することで、省略することができる。

- (1)建築物エネルギー消費性能の向上等に関する法律施行規則（以下「施行規則」という。）

- 様式第一「計画書」(写し)及び、施行規則様式第七「適合判定通知書」(写し)
- (2) 施行規則様式第二「変更計画書」(写し)及び、施行規則様式第七「適合判定通知書」(写し)
- (3) 適合性判定業務規程別記様式第1「軽微変更該当証明申請書」(写し)及び、同別記様式第2「軽微変更該当証明書」(写し)
- (4) その他当機関が必要と認める図書

(評価書が交付された後に行う計画の変更に係る評価の申請)

第6条 申請者は、省エネ性能ラベル及びBELS評価書(以下「評価書等」という。)の交付を受けた建築物の計画を変更する場合において、UDIに変更に係るBELSに係る評価の申請をすることができる。この場合、申請者はUDIに対し、次の各号に掲げる図書を、提出しなければならない。ただし、従前のBELS評価書等が他の機関で交付されたものについて、UDIに変更申請を行う場合は、新規の申請として取り扱う。

- (1) BELSに係る変更評価申請書 正副

(方法書別記様式第29号)

- (2) 申請添付図書のうち、当該変更に係るもの 2部

下記内容の変更の場合、(1)は第三面までとすることができる。

第二面：申請者等の概要

第三面：【建築物の所在地】、【建築物の名称】、【不動産ID】、【建築物の新築竣工時期(計画中の場合は予定時期)】、【申請対象部分の改修の竣工時期】

- (3) その他UDIが必要と認める図書

2 第5条第2項の規定は、変更に係る申請について準用する。

(申請の受理及び契約)

第7条 UDIは、第5条又は第6条の申請があったときは、次の事項を確認し、当該評価用提出図書を受理する。

- (1) 申請に係る建築物の所在地が、第3条の業務を行う区域内であること。
- (2) 申請に係る建築物の区分が、第4条の業務を行う区分に該当するものであること。
- (3) 評価用提出図書に形式上の不備がないこと。
- (4) 評価用提出図書に記載すべき事項の記載が不十分でないこと。
- (5) 評価用提出図書に記載された内容に明らかな虚偽がないこと。

2 UDIは、前項の確認により、評価用提出図書が同項各号のいずれかに該当しないと認める場合には、その補正を求める。

3 申請者が前項の求めに応じない場合又は十分な補正を行わない場合には、UDIは、受理できない理由を明らかにするとともに、申請者に評価用提出図書を返却する。

4 UDIは、第1項により申請を受理した場合においては、申請者に引受証を交付する。この場合、申請者とUDIは別に定めるBELS評価業務約款(以下「業務約款」という。)に基づき契約を締結する。

5 前項の業務約款又は引受証には、少なくとも次の各号に掲げる事項について明記する。

- (1) 申請者は、提出された書類のみでは評価を行うことが困難であるとUDIが認めて請求した場合は、評価を行うのに必要な追加書類を双方合意の上定めた期日までにUDIに提出しなければならない旨の規定
- (2) 申請者は、UDIが申請に関する是正事項を指摘した場合は、双方合意の上定めた期日までに当該部分の評価用提出図書の修正その他必要な措置をとらなければならない旨の規定
- (3) 評価書等の交付前までに、申請者の都合により申請内容を変更する場合は、申請者は、双方合意の上定めた期日までにUDIに変更部分の評価用提出図書を提出しなければならない旨の規定及びその変更が大幅なものとUDIが認める場合にあっては、申請者は、当初の申請内容に係る申請を取下げ、別に改めて評価を申請しなければならない旨の規定
- (4) UDIは、評価書等を交付し、又は評価書等を交付できない旨を通知する期日(以下「業務期日」という。)を定める旨の規定
- (5) UDIは、申請者が(1)から(3)までの規定に反した場合には、前号の業務期日を変更することができる旨の規定
- (6) UDIは、不可抗力によって、業務期日までに評価書等を交付することができない場合には、申請者に対してその理由を明示の上、必要と認められる業務期日の延期を請求することができる旨の規定

- (7)申請者が、その理由を明示の上、UDI に書面をもって業務期日の延期を申し出た場合でその理由が正当であると UDI が認めるときは、UDI は業務期日の延期をすることができる旨の規定
- (8)UDI は、申請者の責めに帰すべき事由により業務期日までに評価書等を交付することができないときは、契約を解除することができる旨の規定

(申請の取下げ)

- 第 8 条 申請者は、前条の評価書等の交付前に申請を取り下げる場合においては、その旨を記載した取下げ届（方法書別記様式第 30 号）を UDI に提出する。
- 2 前項の場合においては、UDI は、評価の業務を中止し、評価用提出図書を申請者に返却する。
- 3 申請の取下げの受理については、あらかじめ申請者と協議して定めるところにより、電子情報処理組織の使用又は磁気ディスクの受理によることができる。

第 2 節 評価の実施方法

(評価の実施方法)

- 第 9 条 UDI は、申請を受理したときは、速やかに、第 13 条に定める評価員に評価を実施させる。
- 2 評価員は次に定める方法により評価を行う。
- (1)評価用提出図書をもって評価を行う。
- (2)評価用提出図書が申請書に記載されている性能を有しているかどうかを方法書に従って確認する。
- (3)評価を行うに際し、書類の記載事項に疑義があり、提出された書類のみでは当該建築物が申請書に記載されている性能を有しているかどうかの判断ができないと認めるときは、追加の書類等を求めて評価を行う。
- 3 評価員は、評価上必要があるときは、評価用提出図書に関し申請者に説明を求める。

(評価書の交付等)

- 第 10 条 UDI は、評価が終了した場合においては、次に掲げる場合を除き、速やかに評価書等を申請者に交付する。
- (1)評価用提出図書に形式上の不備があり、又はこれらに記載すべき事項の記載が不十分であるとき
- (2)評価用提出図書に記載された内容が明らかに虚偽であるとき
- (3)評価料金が支払期日までに支払われていないとき
- 2 前項の評価書の交付番号は、別途協会が公開する方法による。
- 3 UDI は第 1 項各号に該当するため評価書等を交付しないこととした場合においては、その旨の通知書（方法書別記様式第 28 号）を申請者に交付する。
- 4 UDI はすでに評価書等の交付を行っている建築物に対し、当該建築物の関係者より交付の申請があった場合は、評価書の交付を行う。この場合、UDI は当該申請者が当該建築物の関係者であることについて書面を持って確認する。

(プレート等の交付)

- 第 11 条 UDI は、第 10 条の評価書等に加えて、方法書に定めたプレート、シールの交付を行うことができる。

第 3 章 評価料金

(評価料金)

- 第 12 条 UDI は、評価の実施に関し、別表 1 から別表 4 に掲げる評価料金を徴収することができる。
- 2 申請者は、評価料金を所定の払込取扱票に基づき、コンビニエンスストアの収納代行サービスを利用することにより、支払うものとする。ただし、やむを得ない事由がある場合は、別の収納方法によることができる。
- 3 前項の納入に要する費用は申請者の負担とする。
- 4 UDI と申請者は、別途協議により一括納入その他別の納入方法をとることができるものとする。
- 5 評価料金は、次に掲げる場合に減額することができるものとする。
- (1)当該業務が効率的に実施できるとセンターが判断したとき。
- (2)その他 UDI が必要と認めたとき。

- 6 評価料金は、次に掲げる場合に増額することができるものとする。
- (1) 申請者の非協力その他UDIの責めに帰することのできない事由により業務期日が延期になったとき。
 - (2) 別表1から別表4に定める評価料金に含まれない業務を実施しなければ評価が行えないとUDIが判断したとき。
- 7 納入された評価料金は返還しないものとする。ただし、UDIの責めに帰すべき事由により評価の業務が実施できなかった場合には、この限りではない。

第4章 評価員

(評価員)

第13条 UDIは、次に該当する者を評価員として選任する。

- (1) 非住宅の評価を行う場合は、法第42条に定める適合性判定員。
- (2) 住宅の評価を行う場合は、住宅の品質確保の促進等に関する法律（平成11年法律第81号。）第13条に定める評価員で、かつ、共同住宅共用部における一次エネルギー消費量の算出についての知識を有する者、または法第42条に定める適合性判定員。

(評価員の教育)

第14条 評価員の資質を向上するため、評価員に対し、年1回、UDIの行う評価業務に関する研修を受講させる。

(管理者)

第15条 UDIは役員又は職員の中から、BELS業務の管理者となる者を任命する。

- 2 管理者は、評価の業務を統括し、評価の業務の適正な実施のため、必要かつ十分な措置を講ずるものとし、全ての評価書等の交付について責任を有するものとする。

(秘密保持義務)

第16条 UDIの役員及びその職員（評価員を含む。）並びにこれらの者であった者は、評価業務に関して知り得た秘密を漏らし、又は自己の利益のために使用してはならない。

第5章 評価業務に関する公正及び適正性の確保

(評価業務に関する公正の確保)

第17条 UDIは、UDIの役員又はその職員（評価員を含む。（以下本条において同じ））が、申請を自ら行った場合又は代理人として申請を行った場合は、当該建築物に係る評価を行わない。

- 2 UDIは、UDIの役員又はその職員が、申請に係る建築物について次のいずれかに掲げる業務を行った場合は、当該建築物に係る評価を行わない。

- (1) 設計に関する業務
- (2) 販売又は販売の代理若しくは媒介に関する業務
- (3) 建設工事に関する業務
- (4) 工事監理に関する業務

- 3 UDIは、その役員又は職員（過去2年間に役員又は職員であった者を含む。）のいずれかがUDIの役員又は職員である者の行為が、次のいずれかに該当する場合（当該役員又は職員が当該申請に係る評価業務を行う場合に限る。）は、当該申請に係る評価を行わない。

- (1) 申請を自ら行った場合又は代理人として申請を行った場合
- (2) 申請に係る建築物について、前項の(1)から(4)までのいずれかに掲げる業務を行った場合

- 4 UDIは、評価ミスや不正評価を抑制するために協会の行う調査を受ける。

第6章 雑 則

(帳簿の作成及び保存方法)

第18条 UDIは、次の(1)から(4)までに掲げる事項を記載した評価業務管理帳簿（以下「帳簿」という。）を作成し事務所に備え付け、施錠のできる室又はロッカー等において、個人情報及び秘密情報が漏れ

ることがなく、かつ、評価業務以外の目的で複製、利用等がされない、確実な方法で保存する。

(1) 申請受付年月日

(2) 評価書に表示する事項のうち、次に定める事項（複合建築物の場合は、住宅と非住宅両方の項目を表示することとなるが、複合建築物の場合では表示されない項目については対象外）

ア 一次エネルギー消費量に係る多段階評価

イ 住宅部分の断熱性能（外皮性能）の多段階評価

ウ 再生可能エネルギー利用設備の有無

エ 目安光熱費

オ Z E B・Z E H水準の判定

カ 「ネット・ゼロ・エネルギー」（表示されたZ E BまたはZ E Hマークを記載する。マーク表示がない場合は「－」とする。）

キ 建物名称（不動産 ID を除く）

ク 建築物の所在地及び平成 28 年国土交通省告示 265 号に定める地域の区分

ケ 構造、建築物の階数、延べ面積、住棟の場合は住戸数、非住宅・複合建築物の場合は、建築物エネルギー消費性能基準等を定める省令（平成二十八年経済産業省・国土交通省令第一号）に規定される用途

コ 評価対象

サ 評価手法

シ 削減率及び BEI 値（モデル建物法の場合は、削減率及び BEIm 値）

ス 住宅の場合は、断熱性能（外皮性能）の外皮平均熱貫流率UA 値の設計値（住棟の場合は、最も性能値が低い住戸の値を表示する。「セ」においても同じ。）

セ 住宅の場合は、断熱性能（外皮性能）の冷房期平均日射熱取得率 η_{AC} 値の設計値

ソ 再生可能エネルギー利用設備の種類

タ 評価書交付番号

チ 評価機関名

ツ 評価員氏名

テ 設計一次エネルギー消費量、基準一次エネルギー消費量及びその判定と、誘導設計一次エネルギー消費量、誘導基準一次エネルギー消費量及びその判定（モデル建物法を含む場合は判定のみ）ト 非住宅の場合は、大規模非住宅の場合の設計一次エネルギー消費量、基準一次エネルギー消費量及びその判定（モデル建物法を含む場合は判定のみ）

ト 非住宅の場合は、大規模非住宅の場合の設計一次エネルギー消費量、基準一次エネルギー消費量及びその判定（モデル建物法を含む場合は判定のみ）

ナ 住宅の場合は、断熱性能（外皮性能）の地域区分に応じた省エネ基準及び誘導基準への判定

ニ 非住宅の場合は、断熱性能（外皮性能）BPI 値（モデル建物法の場合は BPIIm 値）及び誘導基準への判定

ヌ 省エネ基準及び誘導基準への総合判定

ネ 非住宅の場合は、大規模非住宅建築物の場合の基準への総合判定

ノ 再生可能エネルギーを除いた設計一次エネルギー消費量の基準一次エネルギー消費量からの削減率

ハ 再生可能エネルギーを加えた設計一次エネルギー消費量の基準一次エネルギー消費量からの削減率

ヒ 申請者の氏名又は名称及び住所

フ 建築物の新築竣工時期及び改修工事の竣工時期

(3) 評価書等の評価年月日又は評価できない旨の通知書の交付年月日

(4) 評価業務に関する料金の額

2 前項帳簿の保存は、帳簿を電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスクに記録し、当該記録を必要に応じ電子計算機その他の機械を用いて明確に表示されるときは、当該ファイル又は磁気ディスクを保存する方法にて行うことができる。

（書類の保存及び管理方法）

第 19 条 評価用提出図書の保存は、評価中にあつては評価のため特に必要ある場合を除き事務所内において、評価終了後は施錠できる室、ロッカー等において、確実かつ秘密の漏れることのない方法で行う。

2 前項の保存は、電子計算機に備えられたファイル又は磁気ディスク等に記録され、必要に応じ電子計算機その他の機器を用いて明確に紙面に表示されるときは、当該ファイル又は磁気ディスク等の保存にて行うことができる。

(帳簿及び書類の保存期間)

第 20 条 帳簿及び書類の保存期間は、次の各号に掲げる文書の区分に応じ、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。

(1) 帳簿 評価業務を廃止するまで

(2) 評価用提出図書 評価書等の交付を行った日の属する年度から 10 事業年度

2 UDI が評価業務の全部を廃止した場合においては、協会が帳簿及び書類の保管を引き継ぐ。

(事前相談)

第 21 条 申請者は、申請に先立ち、UDI に相談をすることができる。この場合において、UDI は、誠実かつ公正に対応する。

(電子情報処理組織に係る情報の保護)

第 22 条 UDI は、電子情報処理組織による申請の受付及び図書の交付を行う場合にあっては、情報の保護に係る措置について別に定める。

(協会への報告等)

第 23 条 UDI は、公正な業務を実施するために協会から業務に関する報告等を求められた場合には、評価内容、判断根拠その他情報について報告等を行う。

附 則

この評価業務規程は、平成 28 年(2016 年)4 月 21 日より施行する。

この評価業務規程は、平成 28 年(2016 年)9 月 5 日より施行する。

この評価業務規程は、平成 29 年(2017 年)4 月 1 日より施行する。

この評価業務規程は、平成 30 年(2018 年)7 月 9 日より施行する。

この評価業務規程は、2019 年 4 月 10 日より施行する。

この評価業務規程は、2021 年 4 月 1 日より施行する。

この評価業務規程は、2022 年 10 月 1 日より施行する。

この評価業務規程は、2023 年 10 月 1 日より施行する。

この評価業務規程は、2024 年 4 月 1 日より施行する。

この評価業務規程は、2025 年 4 月 1 日より施行する。

2025 年 3 月 31 日までに申請受付されているものは、なお従前の例

による。施行日前に評価書が交付された後に計画の変更に係る評価の申請がなされるものについては、なお従前の例による。

この評価業務規程は、2026 年 4 月 1 日より施行する。

制定：平成 28 年(2016 年)4 月 21 日

改定：平成 28 年(2016 年)9 月 5 日

改定：平成 29 年(2017 年)4 月 1 日

改定：平成 30 年(2018 年)7 月 9 日

改定：2019 年 4 月 10 日

改定：2021 年 4 月 1 日

改定：2022 年 10 月 1 日

改定：2023 年 10 月 1 日

改定：2024 年 4 月 1 日

改定：2025 年 4 月 1 日

改定：2026 年 4 月 1 日

別表 1

非住宅建築物に係る評価料金

(1) 建築物の用途がホテル等、病院等、集会所等及びこれらを含む複合用途の場合の評価料金

(単位：円、税込金額)

| 評価対象面積 (㎡) | 標準入力法 | 主要室入力法 | モデル建物法 |
|---------------------|---------|--------|----------|
| ～300 以内 | 198,000 | | 105,6000 |
| 300 超～2,000 以下 | 330,000 | | 171,600 |
| 2,000 超～5,000 以下 | 462,000 | | 237,600 |
| 5,000 超～20,000 以下 | 528,000 | | 264,000 |
| 20,000 超～50,000 以下 | 726,000 | | 396,000 |
| 50,000 超～100,000 以下 | 990,000 | | 528,000 |

(2) 建築物の用途が (1) に掲げるもの以外の場合の評価料金

(単位：円、税込金額)

| 評価対象面積 (㎡) | 標準入力法 | 主要室入力法 | モデル建物法 |
|---------------------|---------|--------|---------|
| ～300 以内 | 132,000 | | 66,000 |
| 300 超～2,000 以下 | 198,000 | | 105,600 |
| 2,000 超～5,000 以下 | 264,000 | | 132,000 |
| 5,000 超～20,000 以下 | 330,000 | | 198,000 |
| 20,000 超～50,000 以下 | 462,000 | | 264,000 |
| 50,000 超～100,000 以下 | 660,000 | | 330,000 |

1. 評価対象となる床面積が 100,000 ㎡を超える場合の評価料金は、別途見積りとする。
2. 省エネ適合性判定と併願の場合は、評価に同一の計算書を用いる場合に限り一律 13,200 円(税込)とする。
3. 変更申請料金は、対象となる非住宅建築物の直前の評価を当機関が行っている場合は、1 回の変更につき、上表当初申請料金の 2 分の 1 の額とする。
4. 改修前後の評価を行う場合は、上表 (1) 又は表 (2) の各料金に当該料金の 2 分の 1 の額を加算した料金とする。

5. ここに掲げる評価方法以外が認められた場合の料金は、別途見積りとする。

別表 2

住宅建築物に係る評価料金

(1) 一戸建ての住宅の評価料金

(単位：円、税込金額)

| 単独申請 | 併願申請 |
|--------|--------|
| 39,600 | 13,200 |

- 併願申請は、建築物エネルギー消費性能適合性判定・設計住宅性能評価・長期使用構造等確認審査とし、計算書の変更がない場合とする。
- 変更申請料金は、対象となる住宅の直前の評価をUD Iが行っている場合、1回の変更につき、上表申請料金の2分の1の額とする。

(2) 共同住宅等の評価料金

1) 住戸のみ：基準額＋住戸単価×評価住戸数 M

(単位：円、税込金額)

| | 住戸数 | 単独申請 | 併願申請 |
|----------------------|-----------|----------------------------|-----------------------------|
| 住戸部分の申請に係る戸数 (住戸) | 2～10 戸以下 | $39,600 + 10,560 \times M$ | 左記評価料金の 2 分の 1 の額と する |
| | 11～30 戸以下 | $79,200 + 6,600 \times M$ | |
| | 31 戸以上 | $158,400 + 3,960 \times M$ | |

2) 建築物全体のみ：基準額＋住戸単価×評価住戸数 M＋共用部料金

(単位：円、税込金額)

| (住戸部分) | 住戸数 | 単独申請 | 併願申請 |
|-----------------------|--|----------------------------|-----------------------------|
| 住宅部分の 全戸数 (住戸) | 2～10 戸以下 | $39,600 + 9,240 \times M$ | 左記評価料金の 2 分の 1 の額と する |
| | 11～30 戸以下 | $79,200 + 5,280 \times M$ | |
| | 31 戸以上 | $158,400 + 2,640 \times M$ | |
| (共用部分) | 床面積 | 単独申請 | 併願申請 |
| 共用部分の床 面積 (共用部) | 300 m ² 以内 | 39,600 | 左記評価料金の 2 分の 1 の額と する |
| | 300 m ² 超～1,000 m ² 以内 | 66,000 | |
| | 1,000 m ² 超～5,000 m ² 以内 | 132,000 | |
| | 5,000 m ² 超 | 198,000 | |

3) 住戸＋建築物全体：基準額＋住戸単価×評価住戸数 M＋共用部料金

(単位：円、税込金額)

| (住戸部分) | 住戸数 | 単独申請 | 併願申請 |
|-----------------------|--|----------------------------|-----------------------------|
| 住宅部分の申請に係る戸数 (住戸) | 2～10 戸以下 | $39,600 + 10,560 \times M$ | 左記評価料金の 2 分の 1 の額と する |
| | 11～30 戸以下 | $79,200 + 6,600 \times M$ | |
| | 31 戸以上 | $158,400 + 3,960 \times M$ | |
| (共用部分) | 床面積 | 単独申請 | 併願申請 |
| 共用部分の床 面積 (共用部) | 300 m ² 以内 | 39,600 | 左記評価料金の 2 分の 1 の額と する |
| | 300 m ² 超～1,000 m ² 以内 | 66,000 | |
| | 1,000 m ² 超～5,000 m ² 以内 | 132,000 | |
| | 5,000 m ² 超 | 198,000 | |

- 併願申請は、建築物エネルギー消費性能適合性判定・設計住宅性能評価・長期使用構造等確認審査とし、計算書の変更がない場合とする。

2. 1 住戸のみの申請の場合の料金は、単独申請 39,600 円、併願申請 13,200 円(税込)とする。
3. 寄宿舍については住室数を M とします。また、交付される評価書の数は一棟一戸により異なります。
4. 変更申請料金は、対象となる共同住宅等の直前の評価を U D I が行っている場合は、1 回の変更につき、上表申請料金の 2 分の 1 の額とする。

別表 3

複合建築物に係る評価料金（評価対象に住宅と非住宅を含む建築物）

(1) 住宅建築物に係る評価料金と非住宅建築物に係る評価料金を合わせた額とする。

別表 4

その他手続きに係る料金

(単位：円、税込金額)

| 手 続 き の 種 類 | 申 請 料 金 |
|----------------------|------------------|
| 評価書の再交付 | 評価書 1 枚につき 6,600 |
| 評価に係る変更以外の変更 | 評価書 1 枚につき 6,600 |
| シール、プレート 事務料金（発注の都度） | 4,400 |
| 電子データの交付 | 別途見積り |